



## ふるえる病気について教えて！

脳神経内科  
岸 真文先生

### Q) 『ふるえ』とはどういう現象ですか？

A) ふるえとは、手や足や頭が一定あるいは一定に近いリズムで小刻みにプルプルと勝手に動いてしまうことです。手のふるえの場合、手首の関節を動かす筋肉が瞬間的に力が入っては抜ける、というサイクルの繰り返しにより生じています。身近なふるえの例として、寒いなか体がずぶ濡れになるとガタガタと勝手に体がふるえます。これは下がった体温を上げるために筋肉が収縮と弛緩を繰り返して熱を発生させるように反応しているのです。



### Q) 寒い時に出るふるえは病気ではない印象ですが、病気によるふるえもあるのですか？

A) ふるえの原因は緊張や寒さ、高熱時といった生理的なもののほか、アルコールに関係するもの、薬の副作用、甲状腺の病気によるものなどいろいろなものがありますが、ここからは本態性振戦とパーキンソン病の二つの病気について解説します。

### Q) 本態性振戦というのはどういう病気ですか？

A) 中高年のかたに多いですが、若いかたでもみられることがあります。血縁の方にも同様に手がふるえる人がいる場合もあります。一つの特徴としてお酒を飲むとふるえが軽くなる場合がありますが絶対ではありません。

原因ははっきりわかっておらず、本態性というのは、原因不明の、という意味合いがあります。古くから知られている病気なのでいろいろな薬が試されてきた実績があり、飲み薬である程度症状を抑えることができます。

また、年をとることでふるえが強くなったり頭にもふるえが出たりするのですが、進行の度合いとしては比較的ゆっくりなもので、程度もそこまで強くないことが多いですし、ふるえ以外には症状はありませんので、さほど心配する必要はありません。生活に支障がなければお薬なしで付き合っているというかたもいらっしゃいます。  
(裏面に続く)



(表面からの続き)

## Q) パーキンソン病とはどのような病気ですか？

A) 中高年のかたに多いですが、まれに若いかたでもみられることがあります。

パーキンソン病は手足のふるえの他に、動作が緩慢になる、関節の動きが硬くなる、転倒しやすくなる、といった症状が特徴の病気です。一番中心の症状は動作緩慢で、手足のふるえは絶対出るというわけではないのですが、目に見えてわかりやすい症状が手足のふるえなので、ふるえの症状から病気の診断に繋がることもあります。本態性振戦と比べるとふるえ以外にも様々な症状が徐々に進行するので、パーキンソン病のほうが生活でお困りになることが多いです。

症状は進みこそするもののゆっくりで経過の長い病気ですので、症状を緩和しながら付き合っていくことができる病気です。病状に応じて様々な治療がありますが、まずは薬物治療が主体となります。

ふるえについて気になる事がありましたら、脳神経内科までお気軽にご相談ください。

## RI検査装置が新しくなりました！！



放射線技術課課長  
米田 猛

### ・RI検査とは？

RI(Radio Isotope：放射性同位元素)を用いた「放射性医薬品」を体内に投与して、疾患の診断を行う検査です。

体内に投与された放射性医薬品は、特定の組織や臓器に選択的に集積する性質があります。RI検査は体内に集積したRIから放出される微量な放射線をガンマカメラ装置で撮影することで、細胞の機能や代謝情報を画像化・数値化することができ、良悪性の鑑別・病期決定・治療効果の判定などに用いられています。



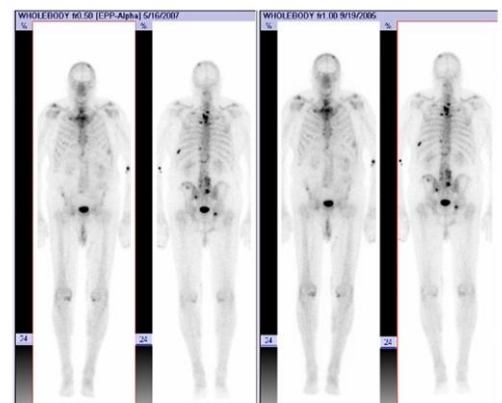
### ・今回新しく導入されたガンマカメラ

この度、新しくSIEMENS社製のガンマカメラ「Symbia Evo Excel」を導入しました。新装置では従来の装置よりも短時間での撮影で以前と同等な画像を取得することができるようになりました。

例えば、新装置に搭載されている

「PlanarProcessing」という画像処理技術を使えば、ノイズ成分を検出、各領域に最適ノイズ除去処理することができ、撮影時間を短縮してもノイズの少ない画像を得ることが可能になりました。

右の画像では撮影時間を半分の時間に短縮していますが、17分の画像と比べて遜色のない画像を得ることができています。



8.5 分収集  
Planar Processing

17 分収集